

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「つくろう あすへの わ」(心と体の調和・仲間とのつながりの輪・自分らしさの我 の三つの「わ」)を大切にしながら、「未来を生きる主人公を育てる」ことを学校教育目標とする。

支援学校における地域の中核としての役割を担い、「未来志向型支援学校」として新たなニーズにも対応する知的障がい児童生徒への支援教育をリードしていく学校をめざす。

- 1 「一人ひとりの心と体を大切にし、将来に向けたステップを作る力を育む学校」
- 2 「関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校」
- 3 「自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校」

2 中期的目標

- 「学校経営推進費」を受けた年度（R5）【事業名】 「知的障がいのある生徒の農福連携（ぶどう栽培における職業教育・キャリア教育）」

1 生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切にする学校づくり

- (1) 危機管理体制の充実（防犯・防災教育の計画的な指導、保護者・地域との連携）
- (2) 生徒の健康維持・管理（学校保健の充実）
- (3) 生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築（人権研修年間3回・伝達研修の充実、個人情報適正管理）
- (4) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営（働き方改革）。

2 生徒の将来に向けた力をはぐくむ学校づくり

- (1) 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実
- (2) 生徒の主体的な意欲を引き出す授業力の向上（全校公開授業年2回・研究協議の充実）
- (3) 生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実
- (4) キャリア教育を全校一貫として実施（キャリアコーディネーターの活用、交流クラスの充実）
- (5) 情報活用能力の育成
- (6) 社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実
- (7) 農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施
- (8) 一人ひとりに応じたよりよい進路の実現 ＊卒業時に社会から孤立する環境をつくらない、不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる
- (9) 進路情報の充実（企業・訓練校・事業所等との連携、先輩の体験を聞く会、進路講演会）

3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり

- (1) 学校情報発信力の向上
- (2) 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実
- (3) 地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上
- (4) 学校間交流の充実

4 自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校づくり

- (1) ICT 機器の効果的な活用
- (2) 学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成
- (3) 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネジメント力の向上（校内研修、外部研修）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

府立西浦支援学校（高等部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値] 保:学校教育自己診断保護者肯定率の略 高保:学校教育自己診断高等部保護者肯定率の略 教:学校教育自己診断教職員肯定率の略	分掌進捗状況
1 生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切に する学校づくり	<p>(1) 危機管理体制の充実</p> <p>(2) 生徒の健康維持・管理</p> <p>(3) 生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力し合える関係の構築</p> <p>(4) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営</p>	<p>(1) 防犯・防災教育を系統的に整理し、組織的な学校安全体制を整備する。保護者と連携した実践的な訓練の実施</p> <p>(2) 児童生徒が自ら心身の健康管理に取り組めるために、「学校保健計画」に基づき健康教育に取り組む</p> <p>(3) ア. 教員の人権意識向上のため、グループワークを含めた悉皆研修を実施。人権委員会を開催し、引き続きいじめの未然防止に努める。 イ. 個人情報の適正な管理に努め、個人情報の流出を防止する</p> <p>(4) ア. 令和7年度に向けて校務分掌の見直し等を行い、業務の平準化を図る。 イ. 時間外勤務を減らす取組みを実施。会議や打ち合わせの効率化を進め、休憩時間を確保する</p>	<p>(1) SPS（セーフティプロモーションスクール）認証に向け、中心となる組織の決定を行う。</p> <p>(2) 学校における怪我を50%削減する（394件）</p> <p>(3) ア. 人権研修3回実施 「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」 教：93%以上 [89%] イ. 個人情報流出0件</p> <p>(4) ア. 校務分掌の改編案を12月までに提示し、3月に決定する。 イ. 時間外労働の削減 80時間超え0人 [1人] 45時間越え100人 [139人]</p>	
2 生徒の将来に向けた力を はぐくむ学校づくり	<p>(1) 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実</p> <p>(2) 生徒の主体的な意欲を引き出す授業力向上</p> <p>(3) 生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実</p>	<p>(1) ア. 令和7年度に向け教育課程の改編を行い、教育活動の充実を図る。 イ. 授業力、自立活動の指導力の向上等と連動し、各計画の作成及び活用実践力の向上をめざす。</p> <p>(2) ア. 全校公開授業及び研究協議の充実、学部を越えた授業見学・意見交換等による授業力の向上 イ. 外部研修の成果の伝達・共有の充実 ウ. 研修年間計画が見える化し、課題やニーズに応じた研修を実施</p> <p>(3) ア. 支援チームと連携した教員が相談しやすい環境を整え、指導内容や指導方法・教科学習の充実を図る イ. ココカラ学習を教科横断的に実施。多職種連携によるココカラ学習の充実</p>	<p>(1) ア. 新たな教育課程を2月までに決定する。 イ. 自己診断（教員）「マニュアルに基づき、作成、評価も含めて適正に運用されている」 個別の教育支援計画 90% [88%] 個別の指導計画 90% [83%]</p> <p>(2) ア. 全校公開授業及び研究授業を年2回継続実施 自己診断（教員）「シラバス、指導案、授業記録を蓄積し常に授業改善に取り組んでいる」85% [78%] イ. 自己診断（教員）「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」78% [72%] ウ. 自己診断（教員）「校内研修組織が確立し、研修が計画的に実施されている」90% [82%]</p> <p>(3) ア. 自己診断（教員）「自立活動の指導に当たり、児童生徒が興味を持って主体的に取り組めるよう工夫している」85% [82%] イ. ココカラウィーク年3回実施を継続。保護者向け学習会の開催 年2回（0回）</p>	

府立西浦支援学校（高等部）

	<p>(4) キャリア教育を全校一貫として実施</p> <p>(5) 情報活用能力の育成</p> <p>(6) 社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実</p> <p>(7) 農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施</p> <p>(8) 一人ひとりに応じたよりよい進路実現 *卒業時に社会から孤立する環境をつくらない、不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる</p> <p>(9) 進路情報の充実</p>	<p>(4) キャリアプランニングマトリクスを基にキャリア教育を意識した授業の実施 ぶどう栽培や水耕栽培等、小中高の系統立てた取り組み内容を決定し、各部での共有と保護者への周知を図り、令和7年度から本格実施する</p> <p>(5) 情報モラルの視点を取り入れた授業を各教科において実施 保護者への啓発</p> <p>(6) キャリアフロンティアコースサポートチームのメンバーを、校長准校長による指名制に変更し、授業主担者のバックアップの充実とともに内容の充実をめざす</p> <p>(7) 校内におけるぶどう栽培を開始するとともに、地域の農家に出向きぶどう栽培の実習を実施する（大阪公立大学、府立農林水産総合研究所、農業大学校等との連携は継続）</p> <p>(8) 進路チームと支援チームが連携し、不登校傾向の生徒の進路実現に向けた支援を充実させる</p> <p>(9) 生徒が企業・訓練校・事業所を知る機会の充実。「先輩の体験を聞く会」を高等部全学年で実施</p>	<p>(4) 自己診断(教員)「小中高一貫性のあるキャリア教育を行っている」75% [66%]</p> <p>(5) 児童生徒・保護者向け情報モラルチェックシートの実施 年2回(0回)</p> <p>(6) 年間を通じて、ぶどう栽培を取り入れたカリキュラムを編成して取り組む。 喫茶ルームの開店回数をR5年度より増やし、生徒の接客経験回数を積み重ねる。 開店回数 年15回(10回)</p> <p>(7) 地域農家での授業内実習(ぶどう栽培)5回実施。[なし] 「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる」教:75%以上 [85%]</p> <p>(8) 不登校傾向(年100日以上欠席)の生徒の進路決定、もしくは関係機関との関係構築の割合を75%にする。 (R4:50%、R5:14%)</p> <p>(9) 企業・訓練校・事業所の見学もしくは紹介の場を設定。 「先輩の体験を聞く会」を高等部全学年で実施。 年3回(2回)</p>	
3 関係 機 関 と 連 携 し 、 地 域 の 中 で 役 割 を 担 う 学 校 づ く り	<p>(1) 学校情報発信力の向上</p> <p>(2) 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実</p> <p>(3) 地域リソースを活用した教育活動による生徒の社会参加、社会貢献意識の向上</p> <p>(4) 学校間交流の充実</p>	<p>(1) ホームページ、マチコミメール等を活用した情報発信。閲覧回数を増やすため、配付プリントにQRコードを掲示</p> <p>(2) 地域の小中学校等への訪問又は来校相談等を実施</p> <p>(3) ア. 学校周辺の施設を積極的に活用した教育活動の実施 イ. 地域にある施設での清掃学習に取り組むことを通し、生徒の社会貢献意識とともに自己肯定感の向上をめざす</p> <p>(4) 学校間交流(松原高校、美原高校、懐風館高校)を充実させ、互いに尊重し協力する力を育成する</p>	<p>(1) 自己診断(保護者)「HP等の活用も含め、学校の様子を伝える努力をしている」 保:90% [87%]</p> <p>(2) 地域の学校園への訪問又は来校相談等を100回実施 [78回]</p> <p>(3) ア. 近隣大学と連携した教育活動を各学部1回の実施 [0回] イ. 近隣施設での清掃学習を10回以上取り組むことを続ける。[11回] 「学校は、子どもが社会の一員であることや役割を意識できる教育活動を行っている」 保:85% [81%]</p> <p>(4) 学校間交流を各学年2回以上実施。両校における方針を作成し共有する。 「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」 保:60% [56%]</p>	

府立西浦支援学校（高等部）

4 自 ら 前 向 き に 変 わ っ て い こ う と す る 力 を 持 つ 学 校 づ く り	<p>(1) ICT 機器の効果的な活用</p> <p>(2) 学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成</p> <p>(3) 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層の指導力・マネジメント力の向上</p>	<p>(1) 実践先進校に教員を派遣し、活用事例等を収集。継続して ICT 機器の使用に関する校内研修を実施</p> <p>(2) 学校運営を牽引する人材のチーフへの起用と育成。他学部交流研修の実施</p> <p>(3) ア. 研究授業の参観及びメンター会議や初任者の振り返り会の充実 イ. 職層に応じた人材育成</p>	<p>(1) 「ICT 機器を効果的に活用している」 教:85%以上 [82%]</p> <p>(2) 「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている。」 教 83%[78%]</p> <p>(3) ア. 「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている。」 教 83%[78%] イ. 「教職員の適性・能力に応じた校内人事が行われ、よく機能している」 教 : 60% [58%]</p>	
--	--	--	---	--